

永遠に完成しない場所 — ディズニーランドという魔法 —

(株)日本設備工業新聞社
代表取締役社長 高倉克也

アニメ制作者として成功したウォルト・ディズニー（1901-1966）の新たな目標は実際に地上の楽園を築くことだった。カリフォルニアの広大な土地を手に入れ、1700万ドルもの資金を投入し、構想から15年の歳月をかけて世界初のディズニーランドを開設する。

文字どおり夢の結晶であるディズニーランドは子供のための遊園地ではなく「人々に幸福を与える場所」として創造された。夫婦、家族、友人が揃って幸福になれる魔法の国は他のテーマパークの追随を許さず世界の頂点に君臨する。

しかし幸福を与えるという強烈な意志を実現するために彼自身が犠牲にしたものも少なくない。与えることを最高の喜びとしていたディズニーはいかなる幸福を人々に与え、その代償として何を失ったのか。

ミッキーマウスの誕生

ディズニーはアメリカ・イリノイ州のシカゴで鉄道員の4男として生まれた。幼い頃から絵を描くのが得意で絵画教室に通った。

地元の高校では学級新聞の漫画欄を担当し、夜は美術学校で腕を磨いた。第1次世界大戦が勃発すると高校を中退し、兵士となった兄のロイを追って陸軍に志願する。だが若すぎたために赤十字社の衛生兵となり、フランスで終戦を迎えた。

帰国後、ディズニーはアニメ制作会社に就職し、



ウォルト・ディズニー

漫画からアニメに興味に移っていった。独立後は生涯の友となるアブ・アイワークスらとスタジオを立ち上げてアニメ制作に没頭したものの、経営面が疎かで倒産させてしまう。

再起を期してディズニーはハリウッドに移り住み、兄のロイと共にディズニー・カンパニーを設立する。まだ23歳の青年は「アリスの不思議の国」や「しあわせウサギのオズワルド」などの人気アニメシリーズを連発し、同社を全米屈指のアニメ制作会社に急成長させた。

ところが契約上のトラブルで法外な配給手数料の支払いやスタッフの引き抜き仕事を仕掛けられ、またしても倒産寸前の危機に追い込まれる。起死回生の一打としてディズニーは新たなキャラクターを創作して抜本的な再建を図ろうとした。そこで誕生したのがアイワークスとの共同作業に

よるミッキーマウスだ。

1928年、音声や音楽を効果的に取り入れた世界初のトーキーアニメ短編映画「蒸気船ウィリー」でディズニーはみずからミッキーマウスの声を演じる。会社再生の救世主としてミッキーマウスはたちまち世界中の人気者となっていく。

政治と戦争の暗い影

1930年代は本格的な黄金時代を迎え、「3匹の子ぶた」、「白雪姫」、「みにくいアヒルの子」などの世評の高いアニメが次々とアカデミー賞を受賞する。しかし1941年アメリカが第2次世界大戦へ参戦すると状況は一変した。スタジオでは労働運動が激化する。

戦時体制への政府の協力要請を受けてディズニーは戦意高揚のプロパガンダ映画を制作する。人気キャラクターのドナルドダックが国民の納税の義務を説き、ミッキーマウスは戦闘機に乗って日本軍の零戦を撃墜するヒーローに変身した。

戦後は鉄のカーテンと呼ばれた東西冷戦構造のなかで反米左翼活動を弾圧するマッカーシズム（赤狩り）の嵐が吹き荒れた。見せしめのためにハリウッドは格好の標的となり、旧ソ連の世界的映画監督セルゲイ・エイゼンシュテインと親しかったディズニーも公聴会で査問された。ただ政府との緊密な関係は変わらず核実験・原子力開発を支持するキャンペーンに参加している。

戦中から戦後のディズニーに対するジャーナリズムの評価はさまざまだ。熱烈な愛国主義者、反共主義者、FBIへの密告者と指摘される一方でスタジオの生き残りをかけた不可避の選択だったという見方もある。あるいは黒人に対する偏見があるとして人種差別主義者のレッテルを貼られたりした。

いずれにせよ戦争を極限とする異様な政治状況がディズニー本来の自由な創作活動に暗い影を落としていたことはまちがいない。その反動として抑圧されていた想像力はアニメの世界にとどまらず現実の世界へと一気に解き放たれていく。苦しみも悲しみも憎しみも存在しない究極のユートピアをこの世に生み出すことがディズニーの見果てぬ夢となった。

世界に想像力がある限り

1955年7月18日はディズニーにとって生涯最良の日といっていい。カリフォルニア州アナハイムに念願のディズニーランドをついにオープンする。心待ちにしていたゲストをまえにディズニーは「こんなハッピーな場所にいらっしゃったすべての皆さまを心から歓迎いたします。私はディズニーランドが人々に幸福を与える場所、大人も子供も共に生命の驚異や冒険を体験し、楽しい思い出をつくってもらえるような場所であってほしいと願っています」と誇らしげにあいさつした。

幸福を与える場所としてディズニーはハード面以上に人間の役割を重視した。夢と魔法に充ちた最高の舞台で働く人々はたんなるスタッフではなくキャスト=役者として振る舞うことが要求された。それぞれが配役に応じたコスチュームを身につけてディズニーランドという生きものの物語を演じる。園内の清掃作業さえパフォーマンス化されているのは「夢を現実にするのは人である」というディズニーの原点を徹底した結果にほかならない。

テレビでもディズニー自身がホスト役を務める「ディズニーランド」がスタートし、世界中で話題を呼んだ。しかし彼の願望はそこで終わらない。

フロリダの中心地にマンハッタンの2倍ほどの土地を買い、実験的未來都市エプコットの建設に情熱を注ぐ。だが完成の日を迎えることなく肺がんに冒されて波瀾に富んだ65年の生涯を閉じた。晩年は酒に溺れ、スコッチ・ウイスキーに漬けたドーナツを好んで食べていたという。

エプコット・プロジェクトは兄のロイに引き継がれ、ディズニーが他界して5年後の1971年、ウォルト・ディズニー・ワールドとして結実する。「ディズニーランドは決して完成することはありません。世界に想像力がある限り永遠に発展しつづけます」。こう語ったディズニーは独創的な想像力によって不幸な現実を忘れ去る幸福なイリュージョンを人々にもたらした。誰よりも自分自身が薔薇色の幸福を渴望していたからだろう。

彼は永遠に完成することのない場所へ必死でたどりつこうとした